獅子舞舞い手（頭持ち）／自営業（細野）
杉尾 政広 さん（53歳）

獅子舞舞い手（尾持ち）／美容室勤務（細野）
川子 涼子 さん（24歳）

正月やお祭りなどに舞われる「獅子舞」は、無病息災や疫病退散を祈って奉納される日本の民俗芸能。小林市内でも、３年ほど前から霧島岑神社で奉納されている。今回は、獅子舞の舞い手を務める杉尾さん（頭持ち）、川子さん（尾持ち）に話を聴いた。

獅子舞を通じて、地域に貢献したい

「獅子舞をきっかけに、地域の方が大切に見守る神社を知ってもらうことが一番。獅子舞で地域に貢献し、地域をよくしていきたい」。

そう話すのは、細野地区在住の杉尾政広さん。同じく細野地区在住の川子涼子さんと、霧島岑神社の獅子舞の舞い手を務めている。

獅子舞は、かつては秋まつりでも奉納されおり一度は途絶えていたが、「市民を元気にしたい」と霧島岑神社の上之薗富雄宮司が呼びかけ、宮崎市内の神社関係者に指導を受けて復活に漕ぎつけた。

「いつか地域に貢献したいと思っていたので、いい機会だと引き受けました」と杉尾さん。知人の川子さんに推薦される形で舞い手を引き受けた。初めから息はピッタリだったと話す２人。現在は、さらに舞に磨きをかけようと、自主的に集まり練習。動画を撮影して顔や足の向きなどまで確認し、どうすれば綺麗に見えるか日夜研究している。

今年１月には宮崎市のフローランテ宮崎でも舞を披露するなど、活躍の場を広げている２人。「最近は、獅子舞を見るために来たというれしい声も聞くようになりました」と、川子さんは手応えを感じている。

11月27日には、霧島岑神社境内で行われる「こばやし秋まつり」の神事でも奉納される予定だ。

獅子舞は、頭を噛むことでその人に憑いている邪気を食べるといわれている。

「頭を噛むときに、真剣な表情が見える。その顔を見ると、しっかりやらないといけないと感じます」と気を引き締める杉尾さん。人々の無病息災や疫病退散の願いを背負い、今日も２人は獅子舞を舞う。

現在、舞い手は杉尾さんと川子さんの１組。「後継者も育成していきたいです。情熱を持って取り組んでくれる仲間ができたらうれしい」と杉尾さんは話す

観覧者に配るお守りを笛・太鼓のメンバーと手分けして手作り。「最近お守りを着けている人を見かけるようになったのでうれしいです」と川子さん

小林人
こばやしびと
Vol.109